

皆さんお元気ですか。

2017年1月の出来事を綴っています。ご覧くださいます。



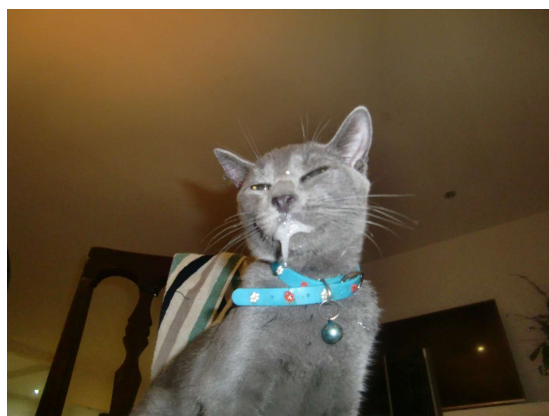
1月22日。第3回日本人会総会に参加した。これは、ニカラグア在住の日本人が年に1回正月に日本大使館公邸に集まり、総会を開催する。その後食事会も行う。約50名近くの日本人が集まった。ほとんどは、大使館員とJICA関係者である。この総会で、「ニカラグア東洋医学30年の歩み」と題して、八巻先生の講演があった。八巻先生は、ニカラグアの「東洋医学大学」の創始者である。この大学は、鍼灸師の育成と同時に患者の治療も行っているとのこと。年間の患者数は約4.5万人、先生がニカラグアに赴任してからの患者数は100万人を超えて、東洋医学が国民医療として定着しているとのこと。学生は、健常者だけでなく、視覚障害者もいて、プロとして育てているとのこと。先生は、日本の大学を卒業し、しばらくサラリーマンだったが、東洋医学に目覚めて脱サラし、専門学校に入り直し、中米での鍼ボランティアの募集の新聞広告を見て、ニカラグアに来たとのこと。ニカラグアでの30年間。強い信念を持った方だと感心した。



1月28日、新道場に畳マットを搬入することになった。合気道の生徒でトラックを持っている人(Walter)がいるので、彼のトラックでマットを運ぶことになった。彼は、パイロットで数週間後には、オマーン国で働くそうだ。彼は、離婚して奥さんとは別居だそうだ。彼の休みの日は、子供たちを自分の家につれてきて一緒に過ごす。マットを運ぶ車中で、彼にニカラグア人の結婚について聞いた。こちらでは、多数の子供や親せきが一家に同居し、特に貧困層は、結婚した後も家から出ていかない。また、この国では離婚が多い。なぜなら離婚が簡単だから、と彼は言う。自分(男性)一人で離婚届けに署名して離婚が成立する。相手(女性)と協議する必要がない。また、法律もいかげん。そして、離婚した男性が元妻に養育費を払う義務があるが、払わない男性が多いとのこと。離婚した男性は、別の女性を見つけるために自分のお金を使ってしまうそうだ。ニカラグアでは、女性が有利になるように法律がなっているらしい。日本では、男女同権が叫ばれているが、この国は、女性の権利のほうが強いらしい。日本より進んでいる国ともいえるかも。



1月28日、公園の小ホールの格納庫から道場へマットを運ぶための台車をホームセンター（名前を SINSIA という）に買いに行った。店員に購入したい台車を持ってきたもらった。その商品（台車）を見て愕然とした。台車の取手のところや他の部分のペンキが剥げていた。また、フレームは傷だらけだ。台車は、ビニールで包装されているのだが、そのビニールはほとんどはがれている。店の軒下に放っておいたものそのままを持ってきたのだ。定員は、これを商品として客に渡す気だ。これは売る商品ではない、と怒鳴った。定員は何とも思っていない。新品と替えて欲しいと言ったら、軒下にある別の台車を見せてくれた。どれも傷だらけで、ペンキははがれている。取りあえず一番よい台車を選んだ。一緒に買いにきてくれた生徒の一人、Leslie さんに尋ねた。ニカラグアでは、埃だらけで、ペンキが剥けている商品を平気で客に売っているが、どう思う。買う人は何とも思わないのか、と尋ねた。客もあまり気にしない、いいかげんな国だから、と答えた。ある人は、この国は、「おおらか」でもあり、「いいかげん」でもあると言っている人がいるが、私はすべてにおいて、「いいかげんな国」だと思った。



1月31日、うちの猫（カリーン）の狂犬病注射と去勢手術をした。去勢手術は25ドルだった。カリーンはオスだけど、メスだともっと高いと獣医さんが言っていた。オスで良かったかも。午後4時ごろ家に連れて帰った。手術後間もないのか、まだ眠むそうだった。床に下ろしたらカリーンはまともに歩けなかった。後ろ足が動かないのだ。部屋の隅の暗いところ寝そべっていた。それから、私は稽古があったので、家を留守にした。そして、午後8時ごろ家に戻ってきて、カリーンをみて驚いた。口から泡を吹いている。そして、耳から血を出していた。どうしたんだろう？手術をしたからか。近所の猫と喧嘩してやられたのか？カリーンは逃げられなかったのか？いつも近所の猫が家に侵入してくるとソッと隠れるのだが、できなかったのか？すこし元気がなさそう。大丈夫だろうか。